

文・古川昭夫 (SEG 英語多読教室主催 / SSS 英語多読研究会理事長)

「英語読書を趣味にしたい!」「日本語の本と同じように洋書が読めるようになりたい!」。そんな願望を叶えるために知っておくべき、多読の基礎知識や心構えとは一体何でしょうか。Q&A形式でご紹介します。

Q1 多読学習とはどんな方法ですか?

多読学習法は、できるだけ辞書を引かずに*、(辞書を引かなくても大意のわかる) やさしい本を大量に読む(少なくとも年30万語以上、2年以上)ことで、英語を流暢に読める・聞ける・書ける・話せることを目指す学習法です。

多読の良い点は、次の3つです。

- ① 自分で本のレベルを選べる (辞書なしでも楽しめる本を)
- ② 自分で本の種類を選べる (学習用の本、Native 向けの本など)
- ③ 自分でジャンルを選べる (中級者以上となりますが)

普通の学習法では、決められたテキストを読んだり、問題を解いたりすることになりますが、「自分のレベルに合わない」、「自分の興味に合わない」、「マイペースでできない」という欠点があります。

一方、多読学習の場合、マイペースで、自分に適切な本を自分で選べばよく、そして、中級者以上になると、本を読むこと自体が楽しくなるので、長く続けられるということになります。

ただ、英語をこれから始める小学生・中学生などの場合、自分で本のレベルを選んだり、本の種類を選ぶのは無理があります。ここでは、読者として、中学2年終了程度の英語力がある高校生以上の方を想定しています。そうでない場合は、まず、しっかりした指導者に英語を、また、英語多読を指導してもらおうことをおすすめします。

*多読では、「絶対辞書を引いてはいけない」と主張する人もいれば、「できるだけ辞書を引け」という人もいます。しかし、辞書を引く、引かないは、自分で決めてもらって構いません。辞書を引くメリットは、「意味が良くわかることが多い」ことであり、デメリットは、「読書がそこで止まる」ということです。

Q2 学校で習った英文読解のような読み方と多読の読み方はどちらがうのですか?

特に、高校や、受験のための塾・予備校では、英文の構造をSV、SVC、SVO、SVO₁O₂、SVOCと分析し、日本語に直訳し、その後、それをこなれた日本語に直すというような読み方(=分析的な精読)を習ってきました。

He plays tennis.

という文章は、英語の習い始めには、

彼は、(現在形だから習慣的に)しています、(何を?) テニスをと直訳的に理解していたかもしれませんが、すぐ、

He plays tennis. = 「彼はテニスをします」

と一文単位で意味がわかってきますよね。それなのに、これをいちいち、『動詞の後ろに「何(誰)を」や「誰に」に当たる目的語が1つあれば第3文型だと考える』と分析して読みなさいというのが、学校で教えている分析的な精読法です。

それに対して、日本語に訳さずに、

He plays tennis.

と来たら、「テニスしてるんだ」とイメージだけで、特にSVOなどと考えないのが多読的な読み方です。従来の分析的な精読と、多読を比較すると次のようになります。



分析的な精読	多読
日本語に変換して読む	内容がわかればよい
返り読みする	英語の語順のまま読む
細部まで100%理解して読む	わかったことをつなげて、7~9割の理解度で読む
わからない単語は必ず辞書を引く	辞書は引かずに文脈から想像する
一文一文、止まって読む	一文ごとに止まらずに読んでいく

Q3 多読的な読み方を身につけるにはどうすればよいのですか？

「日本語に変換せずに、辞書を引かずに内容を理解して読む」のは確かに理想ですが、どうやってそういう読み方の力を伸ばせばよいのでしょうか？

どうしたって、ややこしくて難しい英文は、日本語に直して理解したくなるのは当然です。また、わからない単語が多い英文では、辞書を引いてその単語の正確な意味がわからないと、全体の意味をとることも不可能です。ですから、多読的な読み方を身につけるには、

- ① 非常にやさしい本から始める
- ② やさしい本をたくさん読む
- ③ 朗読を聞いて、英語の語順通りに理解する

ことが必要です。やさしい本でないと、どうしても、日本語に訳してしまいます。ですので、まったく知らない単語が出てこない、非常にやさしくて短い本から始めましょう。

そして、日本語に訳さなくてもある程度読める自信がついてきてからも、知らない単語（未知語）が出てこないか、出てきても、文脈やイラストから意味がほぼ推定できるような本をたくさん読んでください。

95%以上の単語を知っていれば、未知語も50%以上の確率で推定できますし、例えば意味が正確に推定できなくても、大意は十分につかめます。だからこそ、一文ごとに止まらず、流れるように読むことができるのです。

また、朗読音声があるものは、朗読音声も聞くようにすると、自然に、英語の語順で内容を理解できるようになります。

Q4 多読で読むやさしい本にはどのようなものがありますか？

多読を始めるには、内容を一読で、ほぼ100%理解できる非常にやさしい本から始めるのが良いのです。それでは、そのような本にはどんなものがあり、どうやって入手できるのかを紹介します。多読で読むやさしい本には、主に次の2通りの本があります。

- ① 英語学習者用に作成された段階的読みもの (Graded Readers)
- ② 英米人の幼児向けの段階的読みもの (Leveled Readers)

大人のみなさんに最初にすすめたいのは、Graded Readers (GRと略されます) です。GRは、Oxford、Pearson、Cambridge、Cengageなどの語学専門部門をもつ出版社から多数出版されています。

GRの良い点は、文法や語彙の制限をしっかりと守って本を作っている点です。各シリーズによって異なりますが、使用語彙 (headwords) は、200語、300語、400語などときちんと分けられ、文法も入門レベルでは、動詞の現在形しか出てきません。ですから、英語のビギナーでも辞書を引いたりしないで気楽に読めます。長さ (総語数) も、1冊500語程度のものから用意されています。特に、入門期におすすめなのは、下記の4つのGRです。

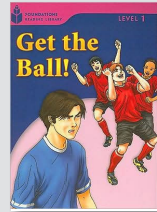


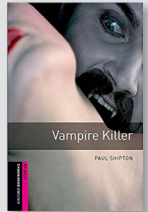
Foundations Reading Library Level 1-7	総語数 500 ~ 3000 語
Pearson English Readers Easystarts ~ Level 1	総語数 700 ~ 4400 語
Cambridge English Readers Starter	総語数 2000 ~ 2600 語
Oxford Bookworms Library Starters	総語数 700 ~ 1700 語

これらは、いずれも、そんなに長くなく、平易な英語で書かれているので、辞書を引かなくても、日本語に訳さなくても、一定程度の英語学習経験があれば、スラスラ読めるでしょう。

GRはとても読みやすく、最近、「教科書っぽくないストーリー」ものも増えてきています。しかし、「英語学習者向け」ということで、「いかにも教科書っぽいストーリー」、「教科書っぽい表現が多い」ので好きでないという人もいます。

そこで「GRは苦手」という人に勧めたいのが、英語圏の幼児向けに作ら

●「難しい単語が少なく、スラスラ読める！」 代表的なGRの例

FRL Foundations Reading Library	PER Pearson English Readers	CER Cambridge English Readers	OBW Oxford Bookworms Library
			
Get the Ball! YL 0.6 521 語	Michael Jordan YL 1.0-1.2 1960 語	Let Me Out! YL 1.0 1973 語	Vampire Killer YL 0.8 1160 語

れた Leveled Readers とされる段階的読み物です。こちらは、2～3 歳児向けのものからあるので、1 冊 50 語以下の非常に短い絵本からそろっています。ストーリーも、短くてもオチのあるほのぼのとした話が多いです。

LR (Leveled Readers) でおすすめなのが下記のシリーズです。

Oxford Reading Tree Kipper Series Stage 1-9	総語数 10～1500 語
I Can Read! Books My First～Level 3	総語数 80～5000 語
Scholastic Readers Pre-Level 1～Level 4	総語数 80～5000 語
Step into Reading Step 1-5	総語数 80～5000 語

いずれも英米人の子供向けなので、「英語独特の英語らしい表現が多い」のが長所であり、それは、「ストーリーの割に、単語や表現が難しいことが多い」という短所にもつながります。LR では、相当やさしいものでも、過去形や慣用的な表現が容赦なく出てきます。しかし、イラストが豊富にあり、ストーリーは単純なので、見たことのない単語も、多くの場合、前後関係とイラストで意味が推定できるでしょう。

もっとも、短い本だと、ストーリー上で重要な言葉の意味が推定できず、ストーリーもそのためはっきり理解できないこともあります。そういうときは、その単語は「意味不明」のまま放っておいてもいいですし、辞書を引いて意味を調べても良いです。

なお、GR と LR では、本の種類がまったく違うため、難易度の比較がしにくいです。そのため、多読の普及を目指す SSS 英語多読研究会では、日本人学習者のために、共通の尺度として、**読みやすさレベル*** (Yomiyasusa Level、YL と略します) を決めています。

● 「英語らしい表現に出会える！」 代表的な LR の例

ORT Oxford Reading Tree	ICR I Can Read! Books	SCR Scholastic Readers	SIR Step into Reading
			
Pirate Adventure YL 0.5 330 語	Frog and Toad Are Friends YL 1.2-1.6 2275 語	Poppleton in Winter YL 1.2-1.4 842 語	Malala: A Hero for All YL 1.5 1809 語

* YL(読みやすさレベル) とは、本の読みやすさを判断する基準で、「日本人学習者にとっての読みやすさ」を 0.0～9.9 のレベルで表示。「YL n の本」は、「n 年間、英語学習を続けた平均的学習者が、GR なら理解度 9 割で、LR なら理解度 7 割で理解できるレベルの本」を表しています。

Q5 自分で多読の進捗状況を測る目安のようなものはないでしょうか？

英語での読書力を測るバロメーターとしては下記が考えられます。いずれも、他人と比較するのではなく、過去の自分と比較するのが良いでしょう。

- ① 使用語彙 (headwords) がどのぐらいの本が読めるか
- ② 読みやすさレベル (YL) がどのぐらいの本が読めるか
- ③ どのぐらいの長さ (総語数) の本を読めるか
- ④ どのぐらいの比率で、日本語に訳さず、読めるか
- ⑤ どのぐらいの速さ (分速) で本を読めるか
- ⑥ 何時間連続して多読できるか

下記のチェック表で今の自分のおおよそのレベルをつかんでみてください。

● 多読のレベル 自己チェック表

スタートレベル (5 万語読破)

- 5 分間、集中して英語の本を読み続けられる
- 分速 60～80 語で読める
- 500 語以下の本 (YL 0) が楽しんで読める
- つい辞書を引きたくなるのを我慢できる

初級レベル (15 万語読破)

- 15 分、集中して英語の本を読み続けられる
- 分速 80～100 語で読める
- 1000 語以下の本 (YL 0-1 程度) が楽しんで読める
- 簡単な英語なら、時々、英語のまま読める

初中級レベル (20～30 万語読破)

- 30 分、集中して英語の本を読み続けられる
- 分速 100～120 語で読める
- 5000 語以下の本 (YL 1-2 程度) が楽しんで読める
- 日本語に訳さないことが多くなる

中級レベル (50～100 万語読破)

- 1 時間、集中して英語の本を読み続けられる
- 分速 120～150 語で読める
- 1 万語以下の本 (YL 2-3 程度) が楽しんで読める
- 日本語に訳さずに読める